

資料編

1 これまでの取組

カモシカに係る制度的な取扱いの変遷及び本県における施策の状況を表－1として示す。

[表－1 カモシカの制度的変遷及び本県における施策の状況]

年度	内容
T14 (1925)	狩猟法改正によりカモシカの捕獲禁止
S9 (1934)	史蹟名勝天然記念物保存法により天然記念物指定
S30 (1955)	文化財保護法により特別天然記念物指定
S54 (1979)	環境庁、文化庁、林野庁による三庁合意 →天然記念物の指定を種から地域へ変更する方向へ施策転換 カモシカ保護地域の設定開始
S59 (1984)	越後・日光・三国山系地域カモシカ保護地域、関東山地カモシカ保護地域の設定
H11 (1999)	鳥獣保護法の改正により、特定鳥獣保護管理計画制度が開始
H18 (2006)	群馬県カモシカ適正管理計画（特定鳥獣保護管理計画・第一期）策定
H19 (2007)	嬭恋村において捕獲を開始
H21 (2009)	昭和村において捕獲を開始 個体数調整実施計画期間を11月～翌年10月までに設定
H22 (2010)	群馬県カモシカ保護管理計画（特定鳥獣保護管理計画・第二期）策定
H23 (2011)	片品村において捕獲を開始
H24 (2012)	沼田市利根町、中之条町において捕獲を開始
H27 (2015)	改正鳥獣保護法（鳥獣保護管理法）の施行 第一種特定鳥獣保護計画及び第二種特定鳥獣管理計画制度が開始 →群馬県カモシカ適正管理計画（第二種特定鳥獣管理計画・第二期計画）策定
H28 (2016)	群馬県カモシカ適正管理計画（特定鳥獣保護管理計画・第三期）策定 川場村において捕獲を開始 中之条町において捕獲を休止
R1 (2019)	嬭恋村、沼田市利根町において捕獲を休止
R2 (2020)	片品村、川場村において捕獲を休止

2 カモシカとシカの生物学的特性の違い

カモシカとシカの生物学的・被害形態の特性の違いを表-2として示す。

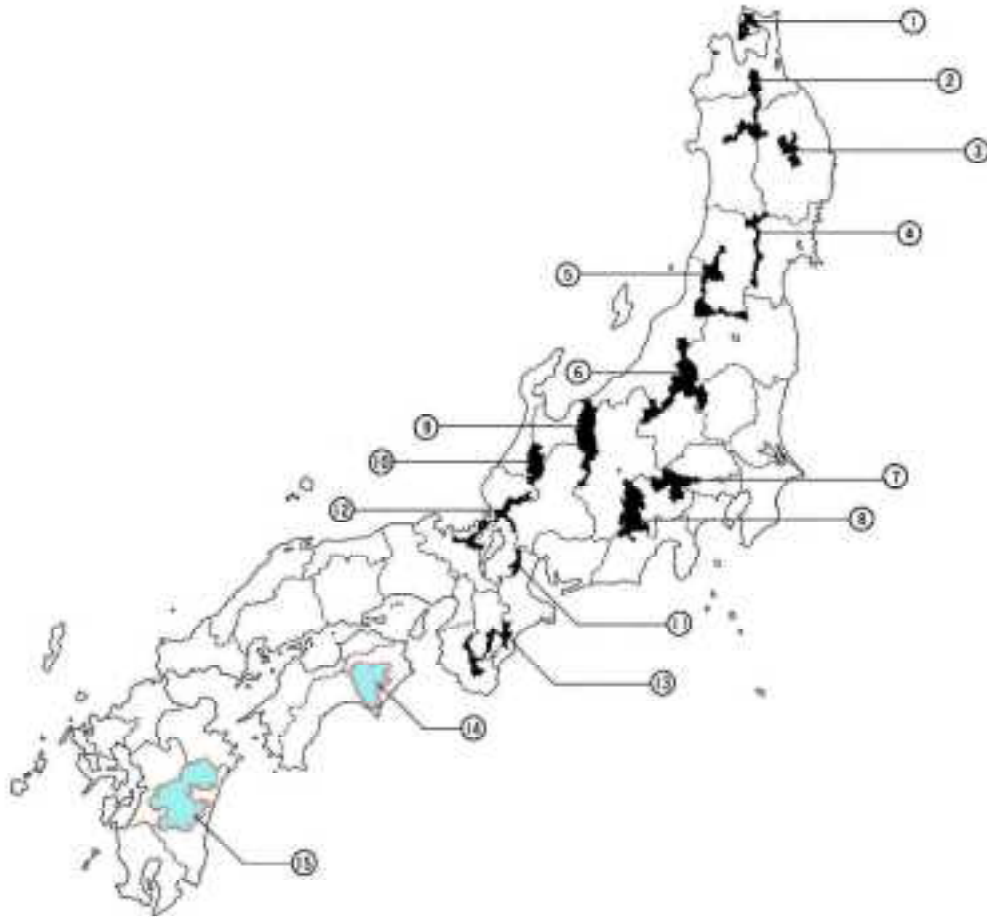
[表-2 カモシカとシカの生物学的・被害形態の特性の違い]

項目	カモシカ	シカ
社会	単独性（なわばりを持つ） →加害個体がある程度特定される	群れ性
密度	低い	高くなりうる
食性	ブラウザー（木本や草本の葉が主体） →自然植生への影響は小さい	グレイザー（ササやイネ科が主体） →自然植生への影響が大きい
性的二型	なし →雌雄の選択的捕獲が困難	あり →雌雄の選択的捕獲は可能
繁殖	ペア型 やや低い妊娠率・長い繁殖期間 →安定的な個体群変動	ハーレム型 高い妊娠率・やや短い繁殖期間 →急激な個体群変動
被害形態	林業：主に1～2齢級の幼齢林で被害が発生 農業：生息密度に関わらず、農地周辺になわばりを持つ個体が生息する場合に被害が発生	林業：幼齢林の枝葉から老齢林の樹幹まで被害が発生 農業：幅広い種類の農作物で被害が発生 ※被害は密度依存的に増加する

3 カモシカ保護地域設定状況

(1) 全国の状況

全国のカモシカ保護地域の位置及び設定状況を図-1として示す。



設定が終了した地域

- | | | | |
|---------------|--------------|------------|--------------|
| ①下北半島地域 | (昭和56年3月設定) | ⑧南アルプス地域 | (昭和55年2月設定) |
| ②北奥羽山系地域 | (昭和59年2月設定) | ⑨北アルプス地域 | (昭和54年11月設定) |
| ③北上山地地域 | (昭和57年7月設定) | ⑩白山地域 | (昭和57年2月設定) |
| ④南奥羽山系地域 | (昭和59年11月設定) | ⑪鈴鹿山地地域 | (昭和58年9月設定) |
| ⑤朝日・飯豊山系地域 | (昭和60年3月設定) | ⑫伊吹・比良山地地域 | (昭和61年3月設定) |
| ⑥越後・日光・三国山系地域 | (昭和59年5月設定) | ⑬紀伊山地地域 | (平成元年7月設定) |
| ⑦関東山地地域 | (昭和59年11月設定) | | |

現在準備中の地域

- ⑭四国山地地域
- ⑮九州山地地域

[図-1 カモシカ保護地域設定状況]

(2) 本県の状況

本県におけるカモシカ保護地域の設定状況及び概要を図-2及び表-3として示す。



〔図-2 本県のカモシカ保護地域の設定状況〕

〔表-3 本県のカモシカ保護地域の概要（昭和59年設定時）〕

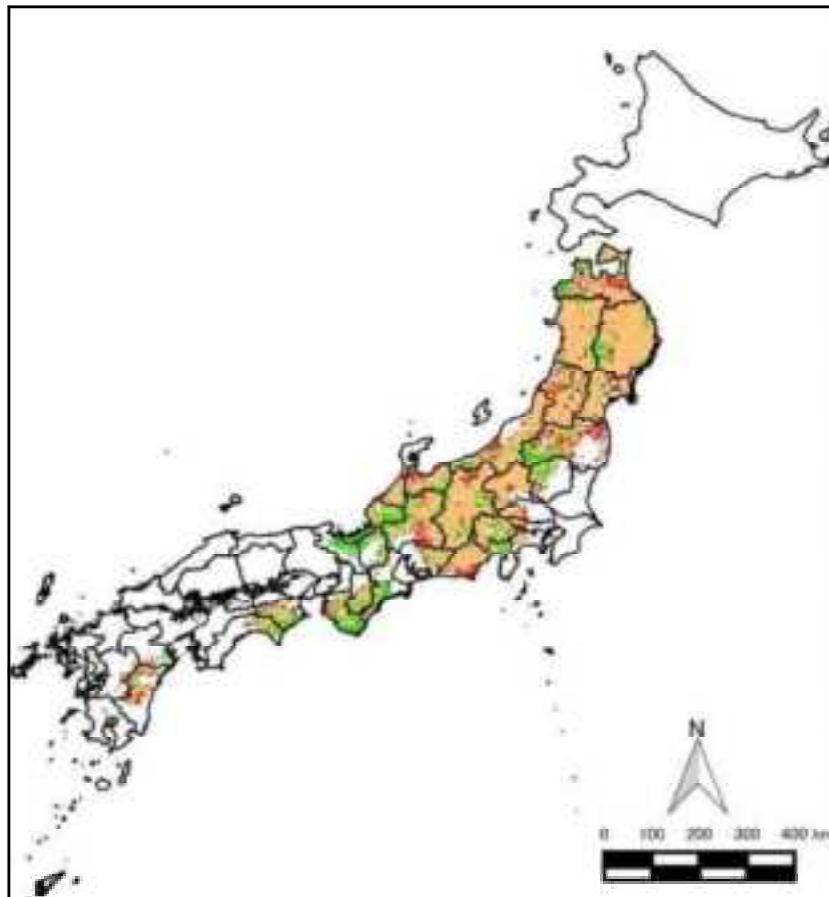
保護地域	関係県	設定年月日	面積 (ha)	うち群馬県分 (ha)	市町村名及び面積 (ha)		保有形態	
					市町村名	面積 (ha)		
越後・日光・三国山系	福島県 新潟県 長野県 栃木県 群馬県	昭和59年 5月	217,934.55	57,192.18	中之条町			
					(旧六合村)	7,435	国有林	
					(旧中之条町)	1,189	国有林	
					みなかみ町			
					(旧新治村)	2,487	国有林	
					(旧水上町)	23,310	国有林	
					片品村	21,740.18	国有林・ 民有林	
沼田市 (旧利根村)	1,031	国有林						
関東山地	東京都 埼玉県 長野県 山梨県 群馬県	昭和59年 11月	76,460	235	上野村	235	国有林	

4 生息状況

(1) 生息分布域

環境省が実施した第6回自然環境保全基礎調査（1998年度（平成10年度）～2004年度（平成16年度））では、本県の2003年（平成15年）におけるカモシカ生息区画率は76.6%であったが、中大型哺乳類分布調査（2018年度（平成30年度））では、2017年（平成29年）におけるカモシカ生息区画率は79.9%となり、14年間で3.3%増加している。

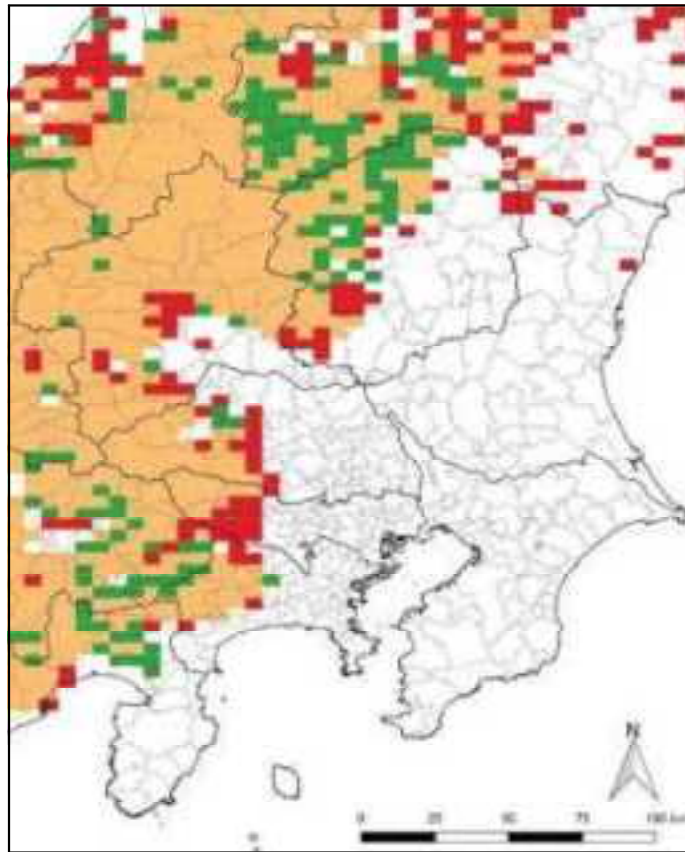
本県のカモシカ生息区画率は、全国平均の31.6%より48.3ポイント高く、関東地方平均の28.7%より51.2ポイント高く、全国の中でも県全体のメッシュ数に占める割合が高いという結果となった。これは、単純計算で県土の約5分の4の地域までカモシカの分布が広がっていることになる（図－3、図－4、図－5、表－4）。ただし、両調査における分布情報は、滅失情報を含めて一度でもカモシカが確認された地点を5kmメッシュに換算して示しているため、分布地域は過大に評価されるおそれがあることに留意する必要がある。



凡例

- 第6回調査(2003年度)のみでカモシカの生息情報が得られた5kmメッシュ
- 第6回調査(2003年度)と平成30年度中大型哺乳類分布調査でカモシカの生息情報が得られた5kmメッシュ
- 平成30年度中大型哺乳類分布調査のみでカモシカの生息情報が得られた5kmメッシュ

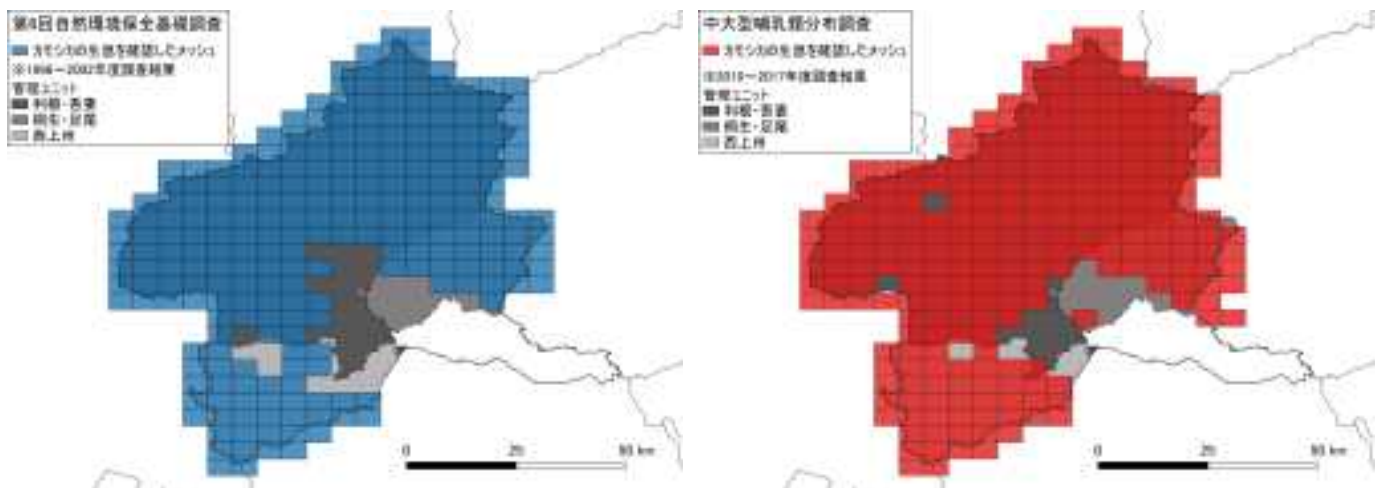
〔図－3 カモシカ全国分布メッシュ比較図〕



凡例

- 第6回調査(2003年度)のみでカモシカの生息情報が得られた5kmメッシュ
- 第6回調査(2003年度)と平成30年度中大型哺乳類分布調査でカモシカの生息情報が得られた5kmメッシュ
- 平成30年度中大型哺乳類分布調査のみでカモシカの生息情報が得られた5kmメッシュ

〔図-4 関東地方におけるカモシカの生息分布メッシュ〕



第6回自然環境保全基礎調査 (1996~2002年)

中大型哺乳類分布調査 (2010~2017年)

〔図-5 カモシカの生息分布メッシュ (5kmメッシュ) の比較〕

[表－4 カモシカの生息区画数・生息区画率の増減]

群馬県の 総区画数	生息区画数			生息区画率		
	2017年	2003年	増減	2017年	2003年	増減
308	246	236	+10	79.9%	76.6%	+3.3%

(2) 生息環境

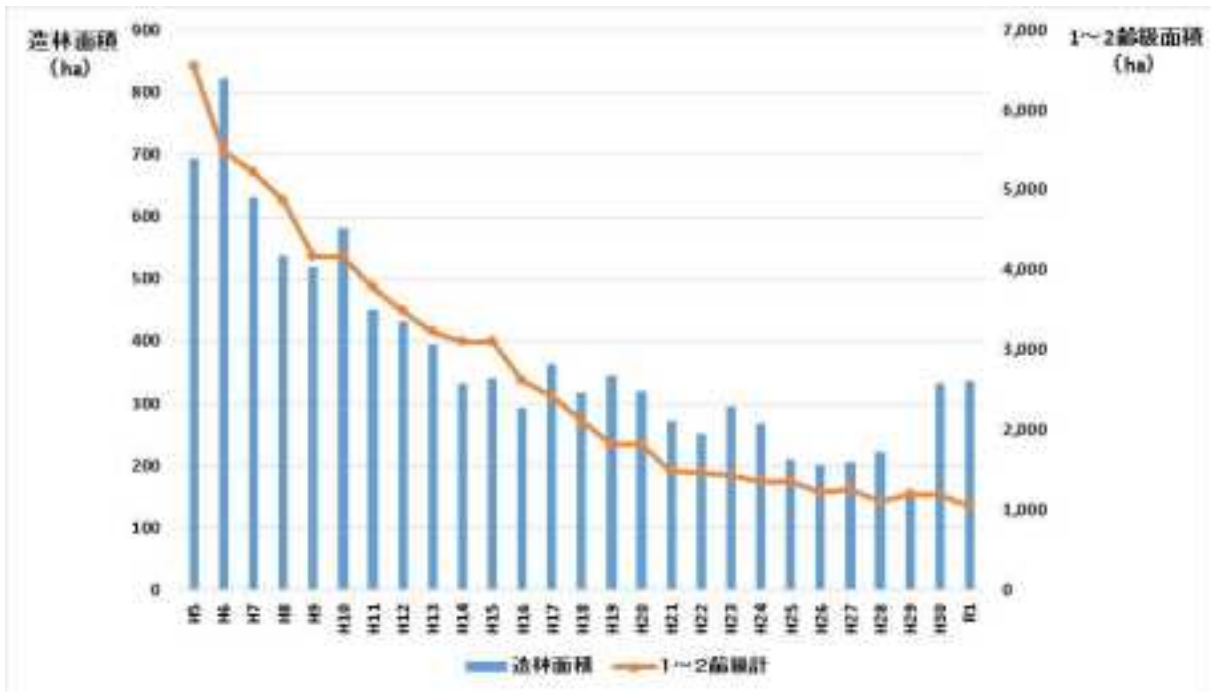
本県の県土面積（636,228ha）のうち、森林面積は427,255haであり67%を森林が占めている（表－5）。県内の造林面積は減少傾向であり、近年はおよそ200haから300haで推移している。また、民有林における齢級別面積を見ると、草本類等が生育しカモシカの採餌場所となる1～2齢級の面積は少なくなっており、減少傾向が続いている（図－6、図－7）。

[表－5 森林の現況]

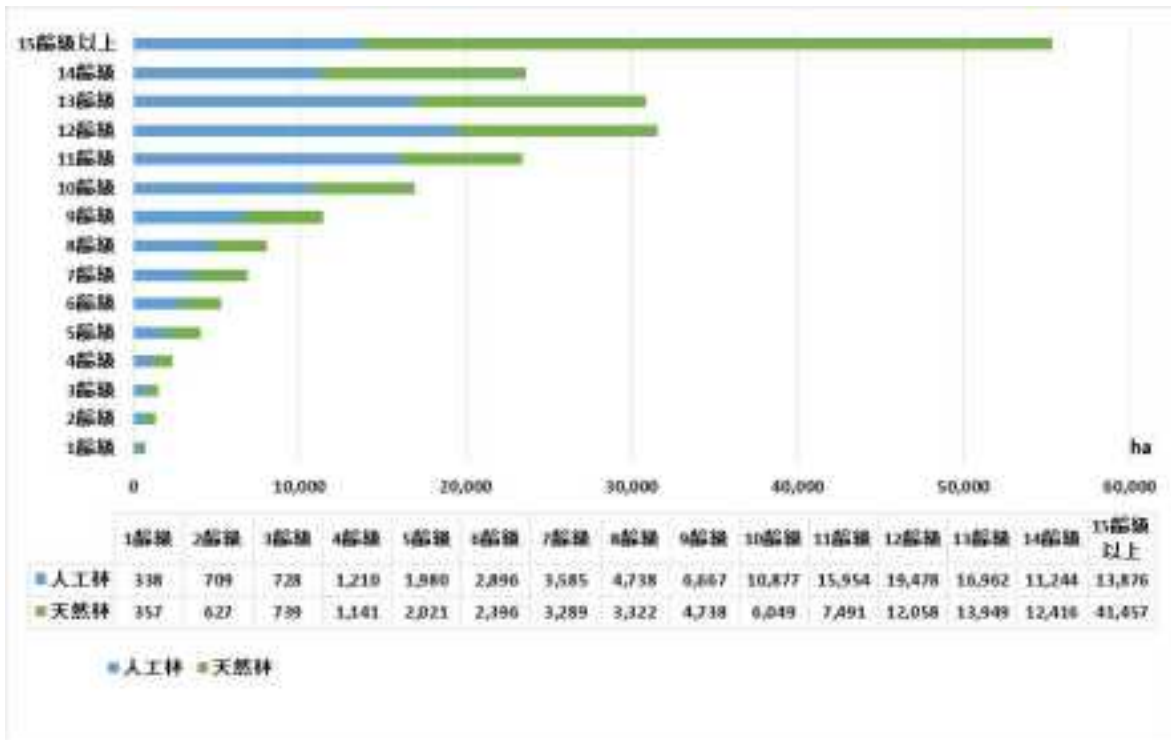
(単位：ha)

県土面積	国有林			民有林		総数	
	うち森林面積	天然林等 面積	人工林 面積	天然林等 面積	人工林 面積	天然林等 面積	人工林 面積
636,228	427,255 (森林率67%)	129,313	66,666	120,032	111,243	249,345	177,909 (人工林率42%)

2019年（令和元年）4月1日現在



[図－6 造林面積及び1～2齢級面積の推移]



〔図－7 民有林齢級別面積（2019年（令和元年）4月1日現在）〕

（3）生息頭数・生息密度

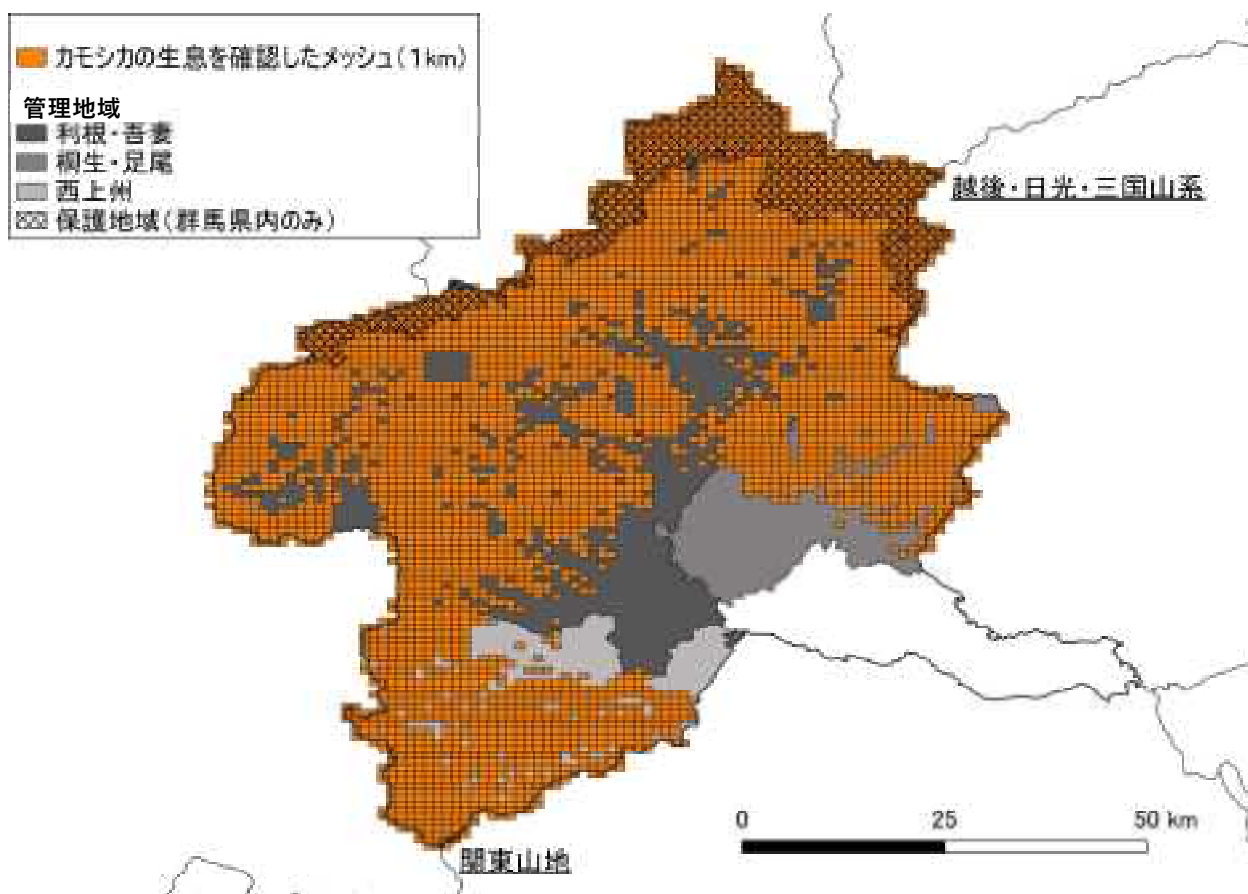
県内のカモシカ生息個体数を推計するにあたり、利根・吾妻地域（上信越・南会津个体群）は、越後・日光・三国山系カモシカ保護地域を含んでいるため、保護地域内と外に分けた。また、西上州地域（秩父・多摩个体群）は関東山地カモシカ保護地域を含むが、面積が非常に狭いため、全域で平均生息密度を算出し、全域のカモシカ分布面積を乗ずる方法を用いた。なお、桐生・足尾地域（日光・足尾个体群）は保護地域を含んでいない。

カモシカの分布面積は、中大型哺乳類分布調査（2018年度（平成30年度））における県内のカモシカ生息分布メッシュから、カモシカが生息していないと考えられる住宅地や開放水域等を1kmメッシュ単位で除外し、カモシカの生息分布域を1kmメッシュ単位に整理した（図－8、表－6）。なお、1kmメッシュの面積は1.037km²（東西1.122km、南北0.925km）とした。

2012年～2019年（平成24年～令和元年）に県内で実施したカモシカ生息密度調査結果を表－7から表－8に示す。あわせて、調査地点位置図を図－9に示した。図－9の地図上の数字は表－7から表－8の番号と一致する。また、地域別の平均生息密度を表－9に示す。

これらのデータを基に県内のカモシカの生息頭数を算出したところ、5,684頭（95%信頼区間：4,815～6,407頭）と推計（表－10）でき、第二期計画時に算出された6,144頭（95%信頼区間：3,081～9,204頭）よりも低い結果が示された。ただし、2019年度（令和元年度）の分布面積は第二期計画時よりも増えており、分布地域は広がっているものの、生息頭数が少なくなっていることが示唆された。

平均生息密度および生息頭数を地域別にみると、利根・吾妻地域の越後・日光・三国山系カモシカ保護地域内では大きく減少していたが、保護地域外の他の地域ではあまり変わらない傾向がみられた。



〔図－8 カモシカの生息分布メッシュ（1 kmメッシュ版）〕

〔表－6 カモシカ分布面積〕

管理地域	保護地域内		保護地域外		合計	
	分布 メッシュ数	面積 (km ²)	分布 メッシュ数	面積 (km ²)	分布 メッシュ数	面積 (km ²)
利根・吾妻地域	747	774.6	2,425	2,514.7	3,172	3,289.4
桐生・足尾地域※	—	—	429	444.9	429	444.9
西上州地域	10	10.4	734	761.2	744	771.5

※桐生・足尾地域はカモシカ保護地域を含まない。